

組織目標評価報告書（平成25年度）

部局名：スポーツ教育センター

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<p>①教育領域</p> <p>①-1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教育の実施体制：教養教育：健康・スポーツ科学部会として、WebClassおよびポートフォリオ活用等についてFDを行う。 教育方法・内容：健康・スポーツ科学担当教員のWebClass活用と各教員の教材開発を推進する。また「健康・スポーツ科学(講義)」内容の再構築に向けて検討を開始する。 教育の成果：WebClassおよびポートフォリオ教材「リフレクション・ノート」による成績評価法について検討・確立する。 <p>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 非常勤講師を含めた健康・スポーツ科学担当者全員参加のFD活動を年2回行う。 WebClass進捗状況を非常勤講師に月1回配信し、活用を促す。 健康・スポーツ科学(講義)再構築にむけた検討会を年2回開催する。 	<p>自己評価</p> <p>健康・スポーツ科学部会のFD活動は年2回実施し、WebClass教材およびポートフォリオ活用について周知徹底を図るとともに改良を加えた。受講学生によるWebClass活用状況は毎月1回配信し、担当教員の意識と活用促進を図った。健康・スポーツ科学(講義)再構築に向けて2回の検討会を開き、全9コマのシラバスの学習目標、DPポイントを統一することができた。</p>
<p>②研究領域</p> <p>②-1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究水準・成果：熱中症対策に関わる研究を推進する。 研究水準・成果：スポーツ振興の効果検証研究を推進する。 研究実施体制：当センターを中心として大学病院、保健管理センター、教育学研究科、地域総合研究センターAGORA等との共同研究、岡山県および岡山市等との県市との共同研究を推進する。 <p>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究論文を2件以上発表する。 全国学会および研究会における研究発表を4件以上行う。 	<p>自己評価</p> <p>熱中症予防対策およびスポーツ振興に関する研究を推進し、研究論文は2件、学会等における講演が1件、発表は10件であった。また学内施設、特にAGORA、岡山県、岡山市との共同研究が進み、岡山市と共同で作成した介護予防のための「あつ晴れ！もも太郎体操」、一般市民向けの「OKAYAMA！市民体操」を作成した。また、学内においても白桃プロジェクトを立ち上げ、白桃ダンスが完成し、来年度より普及活動を行うことになった。</p>
<p>③社会貢献(診療を含む)領域</p> <p>③-1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域スポーツ組織・団体と協働し、スポーツ市民の交流を促進する。 公開講座であるスポーツ講座を充実させる。 健康・スポーツを核とした地域づくりを支援する。 学内外からのスポーツ相談(メール相談を含む)への対応とスポーツ医科学情報の発信を促進する。 <p>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <ul style="list-style-type: none"> まちなかスポーツカフェを年3回程度開催する。 ファジアーノ岡山および奉還町商店街と連携した地域活性化プロジェクトを組織し、検討会議を年10回程度行う。 「地域とスポーツ」をテーマとした公開イベント(講演会あるいはシンポジウム)を年1回程度開催する。 スポーツ講座を16回開催し、講座DVDの貸し出しを行う。 講演及び講習会を年3回以上行う。 スポーツ相談・回答を年10件程度、スポーツ医科学情報発信を年10件程度行う。 	<p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツカフェとして、まちなかキャンパスを1回開催した。 スポーツ講座は16回開催し、録画された講座DVDの貸し出しを41件行った。 地域での講演は13回、講習会は熱中症予防、AED、RICEに関する内容と体操、水泳、ラグビー、ラクロス、ドッチビーのスポーツ実技講習会を行った。 スポーツに関するメール相談・回答は4件であり、月2回のスポーツ障害相談を行った。スポーツ栄養相談は3回行い、個別に6ヶ月間指導した。スポーツ医科学情報発信として熱中症予防対策のための環境測定値(WBGT)、スポーツ講座および各種講習会の報告書をホームページに掲載した。
<p>④センター業務</p> <p>④-1 目標</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ系サークルに対する活動支援を拡充する。 寄附金を有効活用する。 <p>④-2 目標とする(重要視する)客観的指標</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ系サークルへの支援事業の件数を前年比増とする。 寄附金は活用要求が出された段階で協議し(年5回程度)、運用する。 	<p>自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> スポーツ系サークルへの支援事業として、学外施設使用、ビデオ等の貸出、講習会等開催、各種相談業務を行った。 コカ・コーラウエスト社からの寄附金は使用申請が出された段階で運営委員会にて審議し、学外施設の借用費の他、各講習会での必要物品購入費および講師謝金、白桃ダンス(白桃プロジェクト)制作費、製氷機管理費の計7件に使用した。
<p>【総括記述欄】</p> <p>教育領域に関しては定例のFD活動も実施でき、授業改革もスムーズに行うことができた。またWebClass教材やリフレクションノートを改良することができた。研究領域では多数の研究発表ができ、予定していなかったダンス2種類を岡山市と共同で作成することができた。さらに1種類も独自に完成できた。社会貢献領域では計画通りの業務をこなすことができた。センター業務は順調に遂行することができた。管理・運営面に関しても問題はなかった。今年度は予定していた研究および社会貢献領域において、地域との連携が進み事業推進ができた。次年度はさらに地域との連携を拡大し、教育領域へも波及させる予定である。</p>	